

大略後中是等此事全く龜井茲能  
り計策に依りてと賞したる 大之川志

一慶長五年十一月龜井武元が茲能同幡  
伯耆の士民と腹減りむすの功に因りて  
加封二百四十二百石賜りて二万八千

石と領中 大之川志  
國朝文業廣記

是前より源政矩ハ隠岐守茲能より長

男ありしより新十郎といふ慶長

九年從五位下右左衛門下叙任し

同十年是前より小次郎とたむ同十四年

四月伯耆國にといく來地あり石と

并り同十七年九月父の遺族と

継ぎさき此來地をも合せ賜りて

四万二千石と領中その後大坂西度の

以陣に依奉し元和三年九月不  
在將して石見國麻足郡津和城に  
移さる同六年八月十五日二十歳に  
一とく卒せり

一 龜井豊前守政矩慶長九年卒之孫弁  
成濃年人正と以てうつたへくしとく  
叔年以登成又右の列より本意り  
あゝと預らくは左方よ近仕せんといふ

兩人是と

大権現に達し慶長十年十月朔日  
大権現伏見しし江戸に以下向のとき政  
維と依奉の列にり加入られて江戸に  
移り十二月八日  
大権現ししむしと

台徳院殿に告させられ別ち古井大炊頭  
清田玄臣等と以て使併しと政維の孫

に來たり具に歳育とつたふ 寛永清

一 慶長十九年大坂の陣に江戸より供奉  
以て予白浪百枚と給より平多佐渡守組に  
属し以後備に候し人数一千七百人とあり  
是中大坂是山に托し黄金二十枚とた  
す六月二十日大坂再礼のとき四月廿二日  
岡州麻野城とお伏見より供奉し  
平多佐渡守組に属し以後備に候し

候中 月上

一 元和元年六月福清正則罷りて岡州  
とて予女友對馬守永井右近守と遣は  
西國に大石とひきかゝる處別廣清城を  
主とす時よ政報病に部中絶まもも去と  
發し乗運してゆく女將之病の甚し  
きと見て國よ呼しむ友よとしく  
政報從去して國乃境とすししし津

和野城に帰る保養中七月中旬對馬を  
右近大支國中此法度と定め伏見の  
る政能病ありしと之も政と進て伏  
見のりし兩將に會しあ將をばさる  
しるのちと見て歸るさ古井大炊頭  
若中をけりて台體に達し別ち京都に  
行て看病せしむ諸醫治療と加ふし  
とも去るくなくして八月十六日に卒

同上

伊豫守源政連（源政連）ハ結登守（結登守）源政（源政）

、嫡男ありて、少く新十郎と云ふ

朝と名乗る、万治二年十二月、從五位下

伊豫守に叙任し、延寶七年九月廿

一日父に先づりて之十五歳あり

一 龜井伊豫守、茲朝孝心厚く、甚實稟

き人あり、父の志と知ると孝子と云

て用ひされ、泣く降ふとの聖言と云る